(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B1)　(11)特許番号

特許第5654153号
(P5654153)

(45)発行日　平成27年1月14日(2015.1.14)　(24)登録日　平成26年11月28日(2014.11.28)

(51)Int.Cl.			F I		
A61F	5/451	(2006.01)	A61F	5/451	
A61F	5/44	(2006.01)	A61F	5/44	H
A61G	9/02	(2006.01)	A61G	9/00	C

請求項の数 3　(全 14 頁)

(21)出願番号　特願2014-50227(P2014-50227)
(22)出願日　平成26年3月13日(2014.3.13)
(62)分割の表示　特願2014-49883(P2014-49883)の分割
原出願日　平成26年3月13日(2014.3.13)
審査請求日　平成26年3月28日(2014.3.28)
(31)優先権主張番号　特願2014-8090(P2014-8090)
(32)優先日　平成26年1月20日(2014.1.20)
(33)優先権主張国　日本国(JP)

早期審査対象出願

(73)特許権者　512075475
齋藤　恵子
宮城県仙台市青葉区花京院１丁目４番２５号２２０２号室
(74)代理人　100076255
弁理士　古澤　俊明
(74)代理人　100177895
弁理士　山田　一範
(72)発明者　齋藤　徳雄
宮城県仙台市青葉区花京院１丁目４番２５号２２０２号室
(72)発明者　齋藤　恵子
宮城県仙台市青葉区花京院１丁目４番２５号２２０２号室

最終頁に続く

(54)【発明の名称】装着用便座

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
略水平皿状の窪みを有する排便受け部１４と、この排便受け部１４の後端部に設けた略垂直溝状の排尿受け部１５を有する便座本体部１０と、前記排便受け部１４を下面から底面空隙部２９をもって嵌合される底面受け部２７と、前記排尿受け部１５の背面に背面空隙部３０をもって嵌合される背面受け部２８を有する後カバー部１１とを具備し、前記背面受け部２８に、空気供給管５３を連結する送風管連結部材４９を設け、前記送風管連結部材４９に二股に分かれた空気送り管５６を連結し、これらの空気送り管５６を前記背面空隙部３０から底面空隙部２９の両側を通って配置し、これらの空気送り管５６の先端部を、前記底面受け部２７の前端部に配置される導風溝部材４７の左右の上向きの導風溝部４８にそれぞれ連結し、前記排便受け部１４の前端部の上面縁部の左右に上下貫通した導風長孔２５をそれぞれ形成し、これらの導風長孔２５の下面に前記導風溝部４８を密接して連結し、前記左右の導風長孔２５の上面における内壁側に段差８７を形成し、これらの導風長孔２５を含む前記排便受け部１４の前端部に前蓋部１２を被せて前記段差８７を送風路４６とし、この前蓋部１２を、前記排便受け部１４の内壁部に沿って延長し、前記段差８７の送風路４６と連通し、かつ、前記内壁部とに隙間を持って導風板部３９を形成し、この導風板部３９の内壁部との隙間に位置して所定間隔で中心線の左右に複数の導風フィン４０を設けてこれらの導風フィン４０の間を前記排便受け部１４の糞尿を押し流す送風路４６としたことを特徴とする装着用便座。
【請求項２】

中心線に対し、中央の導風フィン４０の間隔を広くし、角度を排便受け部１４の略中央へ向け、中心線から遠い左右の導風フィン４０の間隔を狭くし、角度を排便受け部１４の周辺へ向けることにより、排便受け部１４の略中央への風量が両側より多くなるように形成したことを特徴とする請求項１記載の装着用便座。

【請求項３】

中心線に対し、中央の導風フィン４０の間隔を狭くし、角度を排便受け部１４の略中央へ向け、中心線から遠い左右の導風フィン４０の間隔を広くし、角度を排便受け部１４の周辺へ向けることにより、排便受け部１４の両側への風量が中央より多くなるように形成したことを特徴とする請求項１記載の装着用便座。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、一人で排尿・排便の出来ない独居老人や身動きの不自由な重度要介護者に、寝具の上等で、仰臥又は横臥状態で装着して排便するための装着用便座であって、長時間使用し又は体位変換しても褥瘡が生じにくく、かつ尿漏れを可能な限り防止できる装着用便座に関するものである。

【背景技術】

【０００２】

本特許出願の発明者らは、介護施設の患者や寝たきり老人の要介護者の排尿・排便を自動で検知して排泄処理をするために、要介護者の股間におしめと共に装着する装着用便座をすでに提案した（特許文献１，２及び３）。

特許文献１に示すものは、図１９に示すとおりであり、特許文献２に記載のものを改良したものである。また、特許文献３に示すものも特許文献１に記載のものと略同様のものである。

この図１９において、１００：排泄補助具、１１０：本体部、１１１：可撓接続部、１１２：洗浄液供給ポート、１１３：温風供給ポート、１１４：排泄ポート、１１５：接続端子、１２０：前カップ部、１３０：臀部支持部、１３１：クッション層、１３２：窪み部、１４０：開口部、２００：排泄補助具着用カバー、２０１：前身頃領域、２０２：股下領域、２０３：後身頃領域、２０４：サイドフラップ、２０６：両ファスナタブ、２１０：開口部、２２０：トップシート、２３０：バックシート、２３１：剥離紙、２４０：面ファスナ、２５０：保持シート、２５１：面ファスナ、２５２：面ファスナ、２６０：立体ギャザー、２７０：防漏バリヤである。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００３】

【特許文献１】特開２００８－１４２２４３号公報

【特許文献２】特開２００６－１４１５９０号公報

【特許文献３】特許第５２５４４９８号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

文献１乃至３に示したものには、次のような問題点を有していた。

（１）開口部１４０に排泄された排泄物は、主に洗浄水で押し流すが、押し流す作用が不十分なため、一部が残って悪臭発生の原因となっていた。

【０００５】

本発明は、次のような目的を達成することのできる装着用便座を提供することにある。

（１）排泄物を速やかにきれいに押し流すことができるものであること。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

本発明は、排便受け部１４と排尿受け部１５を有する便座本体部１０に、この便座本体部１０の背部と下面から後カバー部１１を嵌合し、前記便座本体部１０における排便受け部１４の縁部９１に上向きに開口した導風長孔２５を設け、この導風長孔２５の上に隙間を持って前蓋部１２を被せ、この前蓋部１２の排便受け部１４の内壁部８８に沿って隙間をもって導風板部３９を設け、この導風板部３９の内壁部８８との隙間に位置して所定間隔で複数の導風フィン４０を設けてこれらの導風フィン４０の間を送風路４６としたことを特徴とする。

導風フィン４０の間隔及び角度は、仰臥状態で使用たときの糞尿の押し流しを円滑にするために、排便受け部１４の略中央への風量が両側より多くなるように形成したことを特徴とする。

また、導風フィン４０の間隔及び角度は、横臥状態又は体位変換しても糞尿を円滑に押し流せるように、排便受け部１４の両側への風量が中央より多くなるように形成したことを特徴とする。

【発明の効果】

【０００７】

請求項１記載の発明によれば、略水平皿状の窪みを有する排便受け部１４と、この排便受け部１４の後端部に設けた略垂直溝状の排尿受け部１５を有する便座本体部１０と、前記排便受け部１４を下面から底面空隙部２９をもって嵌合される底面受け部２７と、前記排尿受け部１５の背面に背面空隙部３０をもって嵌合される背面受け部２８を有する後カバー部１１とを具備し、前記背面受け部２８に、空気供給管５３を連結する送風管連結部材４９を設け、前記送風管連結部材４９に二股に分かれた空気送り管５６を連結し、これらの空気送り管５６を前記背面空隙部３０から底面空隙部２９の両側を通って配置し、これらの空気送り管５６の先端部を、前記底面受け部２７の前端部に配置される導風溝部材４７の左右の上向きの導風溝部４８にそれぞれ連結し、前記排便受け部１４の前端部の上面縁部の左右に上下貫通した導風長孔２５をそれぞれ形成し、これらの導風長孔２５の下面に前記導風溝部４８を密接して連結し、前記左右の導風長孔２５の上面における内壁側に段差８７を形成し、これらの導風長孔２５を含む前記排便受け部１４の前端部に前蓋部１２を被せて前記段差８７を送風路４６とし、この前蓋部１２を、前記排便受け部１４の内壁部に沿って延長し、前記段差８７の送風路４６と連通し、かつ、前記内壁部とに隙間を持って導風板部３９を形成し、この導風板部３９の内壁部との隙間に位置して所定間隔で中心線の左右に複数の導風フィン４０を設けてこれらの導風フィン４０の間を前記排便受け部１４の糞尿を押し流す送風路４６としたので、複数の導風フィンの角度と間隔の調整で排便受け部における中央部、両側部における送風量を、仰臥状態、横臥状態等の目的に応じて設定することができる。

【０００８】

請求項２記載の発明によれば、中心線に対し、中央の導風フィン４０の間隔を広くし、角度を排便受け部１４の略中央へ向け、中心線から遠い左右の導風フィン４０の間隔を狭くし、角度を排便受け部１４の周辺へ向けることにより、排便受け部１４の略中央への風量が両側より多くなるように形成したので、仰臥状態で使用するのに好適である。

【０００９】

請求項３記載の発明によれば、中心線に対し、中央の導風フィン４０の間隔を狭くし、角度を排便受け部１４の略中央へ向け、中心線から遠い左右の導風フィン４０の間隔を広くし、角度を排便受け部１４の周辺へ向けることにより、排便受け部１４の両側への風量が中央より多くなるように形成したので、横臥状態で使用するのに好適である。

【図面の簡単な説明】

【００１０】

【図１】本発明に係る装着用便座の一実施例を示す縦断面図である。

【図２】図１における便座本体部１０の斜視図である。

【図３】図１における後カバー部１１の斜視図である。
【図４】空気供給機構の斜視図である。
【図５】図１における前蓋部１２の背面からみた斜視図である。
【図６】図７におけるＡ－Ａ線断面図である。
【図７】前蓋部１２の底面図である。
【図８】（ａ）は、洗浄水ノズル１７の縦断面図、（ｂ）は、（ａ）におけるＢ－Ｂ線断面図である。
【図９】図１における尻受け部１３の斜視図である。
【図１０】各部品を組み立てた状態の本発明に係る装着用便座の一実施例を示す斜視図である。
【図１１】図１０の装着用便座に褥瘡防止材を取り付けた状態の一部切り欠いた斜視図である。
【図１２】（ａ）は、本発明の装着用便座に使用されるおむつ６６の内面からみた斜視図、（ｂ）は、（ａ）の外面からみた斜視図である。
【図１３】装着用便座におむつ６６を使用して人に装着した断面図である。
【図１４】横臥状態の人に装着用便座を装着した状態の正面図である。
【図１５】図１４の場合に使用される前蓋部１２の導風フィン４０の他の例を示す底面図である
【図１６】後カバー部における下面と、この下面から続く両側面の一部とを包むように褥瘡防止材を取り付けた状態の他の実施例を示す底面図である。
【図１７】図１６における後カバー部の背面からみた一部切り欠いた背面図である。
【図１８】図１６における後カバー部の側面からみた一部切り欠いた側面図である。
【図１９】従来の装着用便座とおむつの斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１１】
本発明は、排便受け部１４と排尿受け部１５を有する便座本体部１０に、この便座本体部１０の背部と下面から後カバー部１１を嵌合し、前記便座本体部１０における排便受け部１４の縁部９１に上向きに開口した導風長孔２５を設け、この導風長孔２５の上に隙間を持って前蓋部１２を被せ、この前蓋部１２の排便受け部１４の内壁部８８に沿って隙間をもって導風板部３９を設け、この導風板部３９の内壁部８８との隙間に位置して所定間隔で複数の導風フィン４０を設けてこれらの導風フィン４０の間を送風路４６としたことを特徴とする装着用便座である。
【実施例１】
【００１２】
本発明による装着用便座は、大まかに分けて図２に示す便座本体部１０と、図３に示す後カバー部１１と、図７に示す前蓋部１２と、図９に示す尻受け部１３とからなる。
前記便座本体部１０は、図２に示すように、直径が略１００ｍｍ程度の皿状の窪みを有する排便受け部１４と、この排便受け部１４から直角か直角よりわずかに後方に傾き、幅が略５０ｍｍ、高さが略１７０ｍｍ、深さが略２０ｍｍの縦型溝状の排尿受け部１５とからなる。
【００１３】
前記排便受け部１４は、前端から後端にやや傾斜しており、後端に連通して排便吸引孔１９となる筒部２６が一体に突出しており、この排便受け部１４の前端部には、主に肛門８５を洗浄するとともに、排便受け部１４の上面の大便８６を流すための温水を噴射する洗浄水ノズル１７が設けられている。また、前記排便受け部１４の左右の縁部９１には、それぞれ弧状の導風長孔２５が開口し、この導風長孔２５の排便受け部１４側に空気を流すための段差８７が設けられている。前記導風長孔２５の先端部から前記排尿受け部１５の縁部９２に連続する部分にかけて２０～３０ｍｍ程度の幅の広い太股受け部１６が両側にわずかに傾斜して設けられている。前記導風長孔２５から前方に突出して２個の組立舌片２１が設けられ、略中央に組立突起２２が突出している。前記排便受け部１４の背面に

は、図１に示すように配線板８４が設けられ、この配線板８４に搭載した１個の大便センサ２３が排便受け部１４の上面の略中央に露出し、４個の小便センサ２４が大便センサ２３の周りに露出して設けられている。

【００１４】

前記洗浄水ノズル１７の上端部には、図８（ａ）に示すように肛門と陰部を洗浄する上向き噴射ノズル４３が水平に対し４０～５０度の角度で設けられ、また、側面部には、図８（ｂ）に示すように排便受け部１４の上面全体に噴射するように略１８０度の広角の水平噴射ノズル４４が設けられている。この洗浄水ノズル１７の下端部には、導水管４５が連結されている。

前記排尿受け部１５の略中間位置には、図２に示すように肛門と陰部を洗浄する洗浄水ノズル１８が設けられている。前記便座本体部１０の排便受け部１４と排尿受け部１５の背面には、後カバー部１１と連結するための組立突起２２が数箇所に設けられている。

前記排便受け部１４の表面は、テフロン（登録商標）などの低摩擦材が塗布され、糞尿の付着を防止するとともに、流れをよくしている。

【００１５】

前記後カバー部１１は、図３に示すように、底面受け部２７と背面受け部２８と側壁部３１とによって前記便座本体部１０と似た形状となし、前記便座本体部１０の排便受け部１４と排尿受け部１５の背面から取り付けたとき、図１に示すように、排便受け部１４と底面受け部２７との間の底部と両側部に底面空隙部２９が形成され、排尿受け部１５と背面受け部２８との間に背面空隙部３０が形成される。この後カバー部１１の背面受け部２８には、図１に示すように、下から順に、ホース差し込み孔３２と送風管取り付け孔３３と洗浄水管取り付け孔３４とコネクタ取り付け孔３５が開口している。また、底面受け部２７と背面受け部２８の前記便座本体部１０の組立突起２２に対応した位置に組立突起２２が設けられ、前端部左右に組立突起３７を有する組立舌片３６が設けられている。

【００１６】

前記便座本体部１０の筒部２６には、つぶれないが屈曲可能な排泄物吸引ホース５２が嵌め込まれ、結合バンド８３によって固定され、前記後カバー部１１のホース差し込み孔３２から突出し、装着用便座を装着したままで、腰をかがめて起き上がるのを容易にしている。

前記後カバー部１１の送風管取り付け孔３３には、送風管連結部材４９が取り付けられ、外部からの空気供給管５３に連結し、内部では、図４に示すような２本の空気送り管５６が取り付けられている。前記後カバー部１１の洗浄水管取り付け孔３４には、外部からの温水の送水管５４に連結し、内部では、洗浄水ノズル１８と導水管４５に連結した送水管連結部材５０が取り付けられている。前記洗浄水ノズル１８は、排尿受け部１５の略中央に露出して設けられ、排尿後の男性器や女性器を洗浄する。前記後カバー部１１のコネクタ取り付け孔３５には、電気コード５５を有するコネクタ５１が取り付けられ、電気信号の入出力、電源の供給等が行われる。

前記送風管連結部材４９と送水管連結部材５０とコネクタ５１は、後カバー部１１の背面受け部２８に固定的に取り付けてもよいし、また、公知のコネクタ機構により、着脱自在に取り付けるようにしてもよい。

【００１７】

前記送風管連結部材４９には、図４に示すように、二股の空気送り管５６が連結され、これらの空気送り管５６には、それぞれ導風溝部材４７が結合され、この導風溝部材４７には、上面に円弧状に導風溝部４８が開口している。前記空気送り管５６は、便座本体部１０と後カバー部１１との間に形成された背面空隙部３０から両側の底面空隙部２９を経て前記導風長孔２５の下面に密着して取り付けられる。前記空気送り管５６は、送風時に抵抗をなくし送風力を向上させるために、出来るだけ太いものが用いられる。

前記送水管連結部材５０に連結された導水管４５は、便座本体部１０と後カバー部１１との間に形成された背面空隙部３０から底面空隙部２９を経て図１に示すように、前記洗浄水ノズル１７の下端部に連結される。この洗浄水ノズル１７は、図８（ａ）に示すよう

に、約４０～５０度の角度で洗浄の温水を上方へ噴射して主に肛門８５を洗浄する上向き噴射ノズル４３と、図８（ｂ）に示すように、１８０の扇状に洗浄水をほぼ水平に噴射して排便受け部１４を洗浄する水平噴射ノズル４４が設けられている。

前記便座本体部１０の排便受け部１４の背面から大便センサ２３と小便センサ２４を取り付けた配線板８４が固定され、前記大便センサ２３は、排便受け部１４の略中央部上面に露出させ、この大便センサ２３の周りに前記４個の小便センサ２４が正面に露出して設けられている。

【００１８】

前記便座本体部１０の導風長孔２５の上に、前蓋部１２の両側先端部のほぞ４１を便座本体部１０のほぞ孔２０に差し込みつつ被せる。すると、この前蓋部１２には、図５及び図７に示すように、背面中央にＵ字形の導風フィン４０ａが設けられ、また、このＵ字形の導風フィン４０ａの両側に３本ずつの導風フィン４０ｂ，４０ｃ，４０ｄが設けられ、送風路４６ａ、４６ｂ、４６ｃ、４６ｄを構成し、図６に示すように、前記導風溝部４８と導風長孔２５の段差８７を経て連通し、排便受け部１４の上面に空気を送る。

前記送風路４６ａ、４６ｂ、４６ｃ、４６ｄからの空気の流量は、導風フィン４０ａ、４０ｂ，４０ｃ，４０ｄの相互の間隔、角度によって異なるが、糞尿を押し流す処理能力は、仰臥状態のとき、中央の２個所の送風路４６ａの流量が約４０％で、左右の送風路４６ｂ、４６ｃ、４６ｄの流量をそれぞれ３０％とすることが最も効率が良いことが確かめられた。

具体的には、導風フィン４０ｂは、中心線Ｌに対して２６．５度に広がり、導風フィン４０ｃは、中心線Ｌに対して０度（平行）で，導風フィン４０ｄは、中心線Ｌに対して－１５度に傾くことにより初期の目的が達成された。

前蓋部の中央には、ノズル逃げ凹部３８が形成されている。

【００１９】

前記後カバー部１１に、排泄物吸引ホース５２と空気供給管５３と送水管５４と電気コード５５を取り付け、また、便座本体部１０の排便受け部１４の背面に配線板８４、導風溝部材４７等を固定し、便座本体部１０の下面から後カバー部１１を嵌め込み、複数個所の組立突起２２とねじにより便座本体部１０と後カバー部１１を固定する。この便座本体部１０の組立舌片２１と後カバー部１１の組立舌片３６は、それぞれの組立突起２２に組立突起３７を嵌合して重ねた状態で、図９に示す弾性体からなる尻受け部１３の差込み溝６１に圧入し、図６に示すように組立突起２２をねじ孔６４に嵌合して一体化する。このとき、尻受け部１３の底部６３が前記後カバー部１１の底部に密着する。尻受け部１３は、弾性体からなるので、組立舌片２１と組立舌片３６は、差込み溝６１を広げて圧入すると、組立突起２２がねじ孔６４に嵌合して一体化する。このように便座本体部１０と後カバー部１１とを尻受け部１３の差込み溝６１に嵌合した後、便座本体部１０の上のほぞ孔２０に前蓋部１２のほぞ４１を差し込み導風長孔２５の上に前蓋部１２を被せ、前蓋部１２の組み立て舌片９０を載せ凹部６２に載せる。前蓋部１２を被せた後、前蓋部１２のねじ孔６４にねじ６５をねじ込むと、便座本体部１０と後カバー部１１と前蓋部１２が尻受け部１３に一体に固定されて図１０に示すように組み立てが完了する。

【００２０】

次いで、図１１に示すように、褥瘡防止用の第１褥瘡防止材５７と第２褥瘡防止材５８と第３褥瘡防止材５９を装着時に皮膚が圧迫される部分に嵌め込む。前記第１褥瘡防止材５７は、排尿受け部１５の両側の縁部９２に上から被せ、前記第２褥瘡防止材５８は、太股受け部１６の上に上から被せる。第１褥瘡防止材５７と第２褥瘡防止材５８は、一体のものでもよい。

これらの第１褥瘡防止材５７と第２褥瘡防止材５８と第３褥瘡防止材５９は、おしめを介在して装着したとき、体圧が５０ｍｍＨｇ以下、さらに好ましくは、３２ｍｍＨｇ以下となるものが望ましいとされている。

この条件を満足させるため、前記第１褥瘡防止材５７と第２褥瘡防止材５８は、硬度がＪＩＳＡで５～１５度のシリコーンゴムからなり、固定的に接着される。尻受け部１３の

上面に取り付けられる第３褥瘡防止材５９は、硬度がアスカーＣで４～１０度のゲル材からなり、尻受け部１３と第３褥瘡防止材５９の間に汚物等が侵入したとき剥がして清掃し易いように、粘着性を有するものであることが望ましい。また、前記第３褥瘡防止材５９は、仙骨が接触するので、尻受け部１３に仙骨逃げ凹部６０を形成して第３褥瘡防止材５９を乗せることが望ましい。

【００２１】

以上のように構成された装着用便座は、図１２（ａ）（ｂ）に示すおむつ６６を用いて股間に装着する。

このおむつ６６の一例を説明する。

図１２（ａ）（ｂ）において、おむつ本体６７は、腰回り包み部６７ａと、腹回り包み部６７ｂと、これらより幅の狭い股間回り包み部６７ｃとが１枚の比較的薄い紙からなり、このおむつ本体６７の内側には、長方形のクッション材７６が貼着されている。前記股間回り包み部６７ｃの両側と前記腰回り包み部６７ａの端部略中央には、伸縮するギャザー７０が形成され、下面に漏れ防止ひだ７３が形成されてている。

このクッション材７６と股間回り包み部６７ｃを貫通して瓢箪型の排泄孔７４が切り抜かれ、この排泄孔７４の円形孔と直線切り込みの内側部分の貼着代７５は、裏面に剥離紙のついた接着層が形成され、図１１における前蓋部１２の導風板部３９と便座本体部１０の内壁部８８に接着固定される。

この排泄孔７４の両側には、２本ずつギャザーテープ７７が固着れ、内側のギャザーテープ７７の取り付け位置に沿って筒状に膨出した２本の男性器保持部８０が間隔を持って設けられている。

【００２２】

前記おむつ６６の外側面には、腰回り包み部６７ａの端部から排泄孔７４を包み込む大きさの吸湿作用を有する便座被覆布７８が設けられ、この便座被覆布７８の排泄孔７４を包み込む以外の部分の周囲は、腰回り包み部６７ａの下面に接着され、この便座被覆布７８と腰回り包み部６７ａとの重なり合う部分が差込み隙間７９を構成している。前記便座被覆布７８の排泄孔７４を包み込む部分の周縁部には、剥離紙のついた接着層が形成されている。また、前記排泄孔７４の近くの腹回り包み部６７ｂ側に臨ませた内側に男性器保持部８０が設けられ、外側に隙間保持テープ８１の一端部が接着され、この隙間保持テープ８１の他端部に剥離紙のついた接着層が形成されている。前記腰回り包み部６７ａの両側には、面ファスナー７２を有する固着片７１が設けられ、腹回り包み部６７ｂの面ファスナー７２に着脱自在に結合される。

【００２３】

以上のように構成された装着用便座を装着する順序を説明する。

（１）図１１に示す装着用便座の尻受け部１３を、図１２に示すおむつ６６の差込み隙間７９に先端が差込み隙間７９の内部に突き当たるまで差し込む。すると、おむつ６６の排泄孔７４が排便受け部１４と一致する。このとき、洗浄水ノズル１７が排泄孔７４の切り欠き８９から露出する。この状態で、排泄孔７４の円形孔周縁の貼着代７５の剥離紙をはがして前蓋部１２の導風板部３９に貼り付け、また、排泄孔７４の直線部の貼着代７５の剥離紙をはがして排便受け部１４の内壁部８８と排尿受け部１５の内壁部に貼り付ける。

【００２４】

（２）おむつ６６を取り付けた装着用便座を患者等の股間にあてがう。このとき、患者等の臀部が尻受け部１３の第３褥瘡防止材５９の上に載るようにすると、肛門８５が排便受け部１４の大便センサ２３のほぼ真上に位置し、太股の根元部分が装着用便座の太股受け部１６に密着する。

【００２５】

（３）密着したら、腹回り包み部６７ｂを患者等の腹の上まで折り返す。このとき、患者等が男性の場合、男性器保持部８０の間に男性器を位置させて尿道が排尿受け部１５に正しく向くように位置させる。患者等が女性の場合、女性器は排尿受け部１５の洗浄水ノズル１８に略対峙する。

【００２６】
（４）患者等の腹の上から腹回り包み部６７ｂを巻き込み、この腹回り包み部６７ｂの両側からギャザー７０を伸ばしながら腰回り包み部６７ａを被せて固着片７１の面ファスナー７２を腹回り包み部６７ｂの面ファスナー７２に係止する。
【００２７】
（５）装着用便座の排便受け部１４と排尿受け部１５と患者等の泌尿器との間に適正な空間を形成して、糞尿が排泄孔７４の周りのおむつ６６に付着しないようにするため、隙間保持テープ８１を引き込んで、おむつ６６の外面を装着用便座の第１褥瘡防止材５７に密着させ、この隙間保持テープ８１を剥離紙を取り除いて後カバー部１１に貼り付け、更に、隙間保持テープ８１が剥がれないように、隙間保持テープ８１に交差して隙間保持テープ８２を接着する。おむつ６６には、排泄孔７４の両側に２本ずつの面ファスナー７２が形成され、更に股間回り包み部６７ｃの両側にギャザー７０が形成されているので、糞尿や洗浄水がおむつ６６から漏れることはほとんどない。
【００２８】
（６）しかし、おむつ６６と装着用便座のセットの仕方が不十分なため、排便受け部１４と排尿受け部１５の両側から漏れる恐れがあることを防止するため、おむつ６６の外面の便座被覆布７８で排便受け部１４の外側を包み込み、排泄孔７４の剥離紙を除いて便座本体部１０と後カバー部１１に隙間なく貼り付ける。便座被覆布７８は、防水と吸水の機能を持たせることにより、装着用便座の外部に漏れることから確実に防止する。
【００２９】
以上のようにした装着用便座をおむつと共に装着し、排便、排尿を大便センサ２３や小便センサ２４で感知すると、図示しない排泄物処理装置が駆動して装着用便器内の排便と排尿を吸引処理し、温水で洗浄し、温風で乾燥する。
【００３０】
前記実施例では、図７に示すように、装着用便座を股間に装着して仰臥状態で排便や排尿をすることを前提として、前蓋部１２の導風フィン４０ａ，４０ｂ，４０ｃ，４０ｄの角度を、中央部の送風量が４０％で左右部がそれぞれ３０％となるように設定した。
しかし、図１４に示すように、中心線Ｌ１からθだけ傾いた線Ｌ２のように横臥状態で排便、排尿をする人もあるので、その場合には、図１５に示すように、前蓋部１２の導風フィン４０ａ，４０ｂ，４０ｃ，４０ｄの角度を、中央部の送風量が３０％で左右部がそれぞれ３５％などのように、中央部よりも左右部の風量を大きくすることもできる。このように左右の風量を大きくすると、体位変換などの左右に横臥して使用する人に有効である。
また、横臥状態が片側だけ、例えば左側だけの人のためには、左側のフィンの角度だけを図１５のように形成し、右側のフィンは、図７の仰臥時の角度とすることもできる。右側に横臥する人の場合は、その逆とする。
なお、横臥状態や体位変換がしやすいように、図１４に示すように、後カバー部１１の底面部に丸みを持たせて寝具９３に食い込み易くしてもよい。
【００３１】
前記実施例では、図１１に示すように、第１褥瘡防止材５７は、排尿受け部１５の両側の縁部９２に上から被せ、前記第２褥瘡防止材５８は、太股受け部１６の上に上から被せ、第３褥瘡防止材５９は、尻受け部１３の仙骨逃げ凹部６０に被せた。
これらの第１、第２、第３褥瘡防止材５７、５８，５９の他に、図１６，図１７及び図１８に示すように、第４褥瘡防止材９３を、後カバー部１１における下面に取り付けることが望ましい。
さらに詳しくは、この第４褥瘡防止材９３は、前記第１褥瘡防止材５７と第２褥瘡防止材５８と同様、硬度がＪＩＳＡで５～１５度のシリコーンゴムからなり、後カバー部１１における下面と、この下面から続く両側面の一部とを包むように固定的に接着される。前記後カバー部１１の下面における便座被覆布７８を貼着する接着代９６には、第４褥瘡防止材９３が取り付けないようにする。そして、この第４褥瘡防止材９３をおむつ６６の差

込み隙間７９に差し込んだ後、剥離紙９４を剥がして接着層９５で後カバー部１１の下面と両側面に接着して便座本体部１０の側方からの尿や洗浄水の漏れを防止する。この第４褥瘡防止材９３を取り付けることにより、図１４に示すように、寝返りなどの体位変換をした場合にも確実に褥瘡を防止できる。

【符号の説明】

【００３２】

１０…便座本体部、１１…後カバー部、１２…前蓋部、１３…尻受け部、１４…排便受け部、１５…排尿受け部、１６…太股受け部、１７…洗浄水ノズル、１８…洗浄水ノズル、１９…排便吸引孔、２０…ほぞ孔、２１…組立舌片、２２…組立突起、２３…大便センサ、２４…小便センサ、２５…導風長孔、２６…筒部、２７…底面受け部、２８…背面受け部、２９…底面空隙部、３０…背面空隙部、３１…側壁部、３２…ホース差し込み孔、３３…送風管取り付け孔、３４…洗浄水管取り付け孔、３５…コネクタ取り付け孔、３６…組立舌片、３７…組立突起、３８…ノズル逃げ凹部、３９…導風板部、４０…導風フィン、４１…ほぞ、４２…ねじ孔、４３…上向き噴射ノズル、４４…水平噴射ノズル、４５…導水管、４６…送風路、４７…導風溝部材、４８…導風溝部、４９…送風管連結部材、５０…送水管連結部材、５１…コネクタ、５２…排泄物吸引ホース、５３…空気供給管、５４…送水管、５５…電気コード、５６…空気送り管、５７…第１褥瘡防止材、５８…第２褥瘡防止材、５９…第３褥瘡防止材、６０…仙骨逃げ凹部、６１…差込み溝、６２…載せ凹部、６３…底部、６４…ねじ孔、６５…ねじ、６６…おむつ、６７…おむつ本体、６７ａ…腰回り包み部６７ａ、６７ｂ…腹回り包み部６７ｂ、６７ｃ…股間回り包み部６７ｃ、７０…ギャザー、７１…固着片、７２…面ファスナー、７３…漏れ防止ひだ、７４…排泄孔、７５…貼着代、７６…クッション材、７７…ギャザーテープ、７８…便座被覆布、７９…差込み隙間、８０…男性器保持部、８１…隙間保持テープ、８２…隙間保持テープ、８３…結合バンド、８４…配線板、８５…肛門、８６…大便、８７…段差、８８…内壁部、８９…切り欠き、９０…組立舌片、９１…縁部、９２…縁部、９３…第４褥瘡防止材、９４…剥離紙、９５…接着層、９６…接着代。

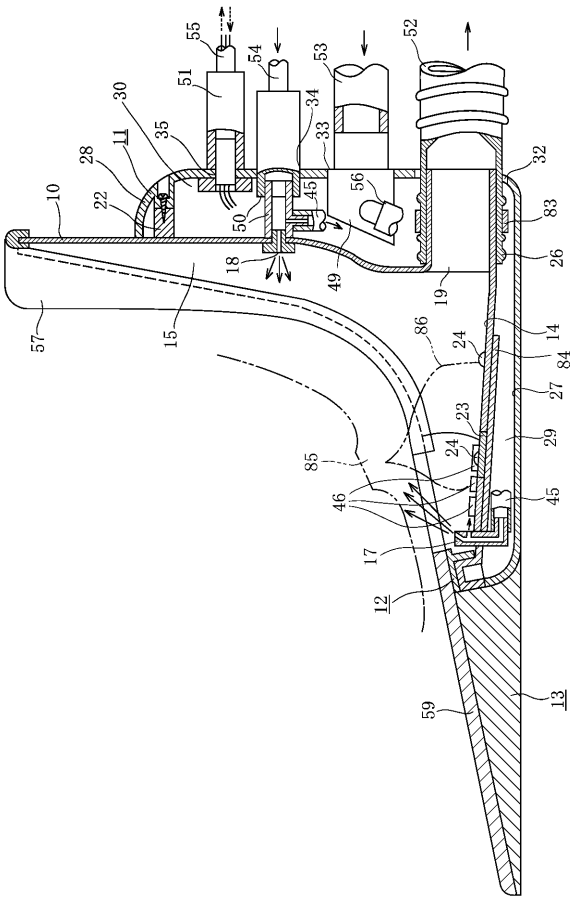
【要約】

【課題】排泄物を速やかにきれいに押し流すことができるものであること。

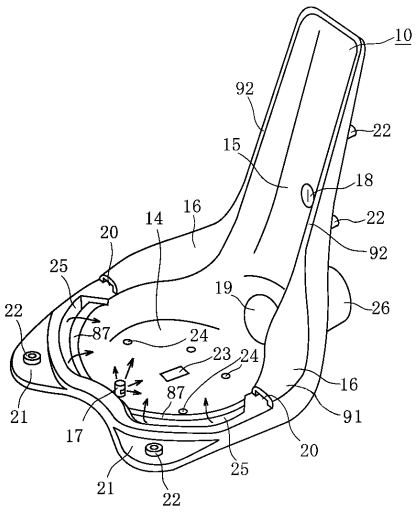
【解決手段】排便受け部１４と排尿受け部１５を有する便座本体部１０に、この便座本体部１０の背部と下面から後カバー部１１を嵌合し、前記便座本体部１０における排便受け部１４の縁部９１に上向きに開口した導風長孔２５を設け、この導風長孔２５の上に隙間を持って前蓋部１２を被せ、この前蓋部１２の排便受け部１４の内壁部８８に沿って隙間をもって導風板部３９を設け、この導風板部３９の内壁部８８との隙間に位置して所定間隔で複数の導風フィン４０を設けてこれらの導風フィン４０の間を送風路４６としたものである。

【選択図】図１

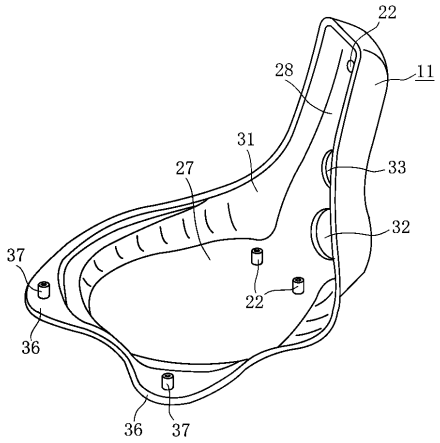
【図１】


55
54
53
52
51
30
34
33
35
11
28
32
10
22
45
56
50
83
18
49
26
19
57
15
86
24
14
84
27
23
29
85
24
46
45
17
12
59
13

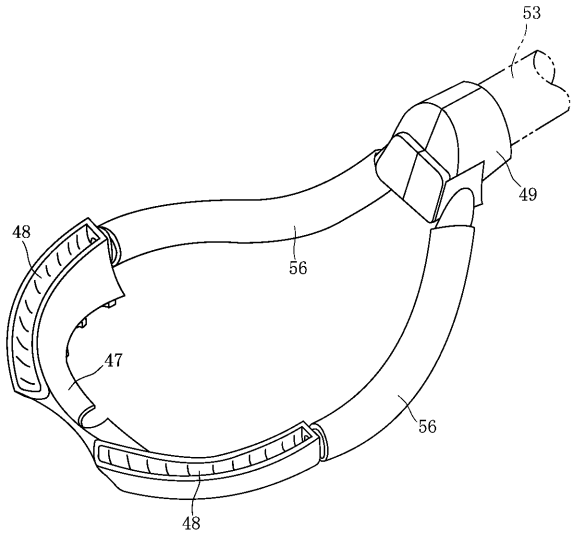
【図２】


10
92
22
15
18
16
14
22
20
92
25
19
26
22
87
24
23
24
16
87
21
17
91
20
25
21
22

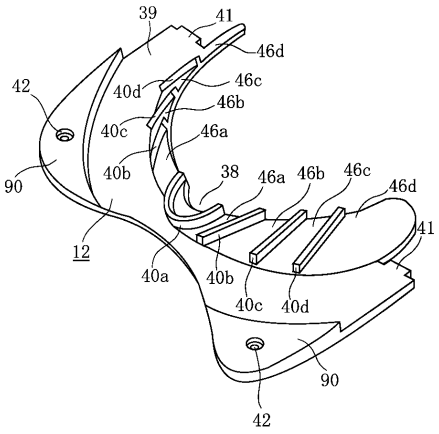
【図３】


22
28
11
31
27
33
32
37
22
36
36
37

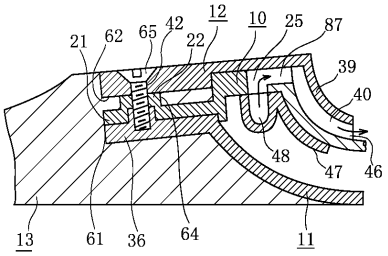
【図４】


53
49
48
56
47
56
48

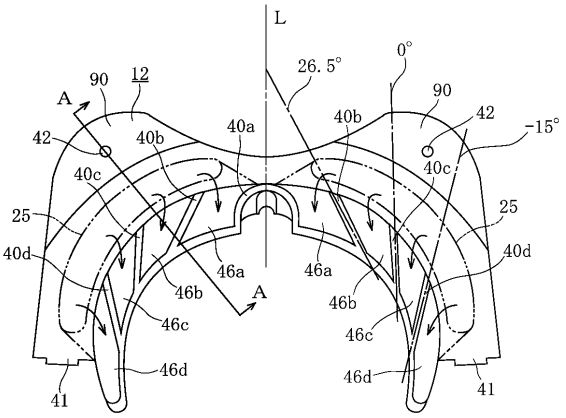
【図５】



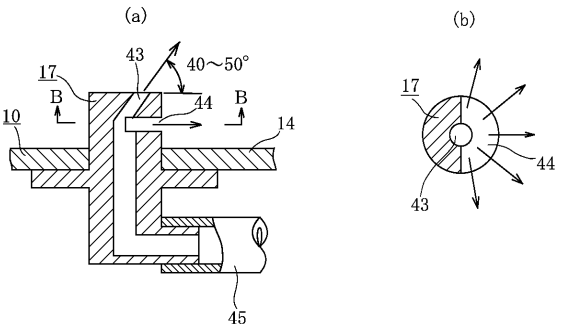
【図６】



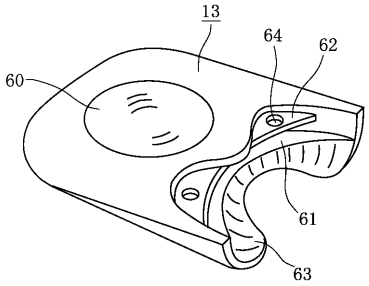
【図７】



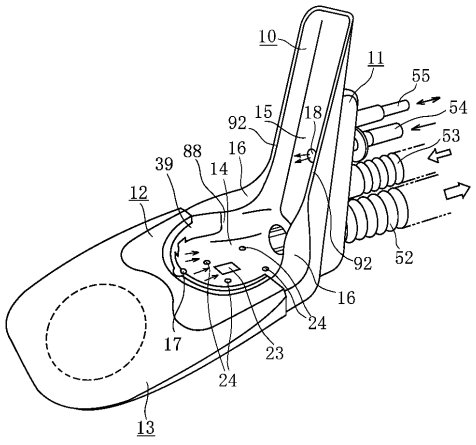
【図８】



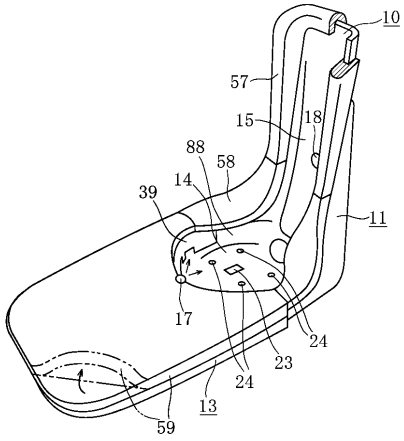
【図９】



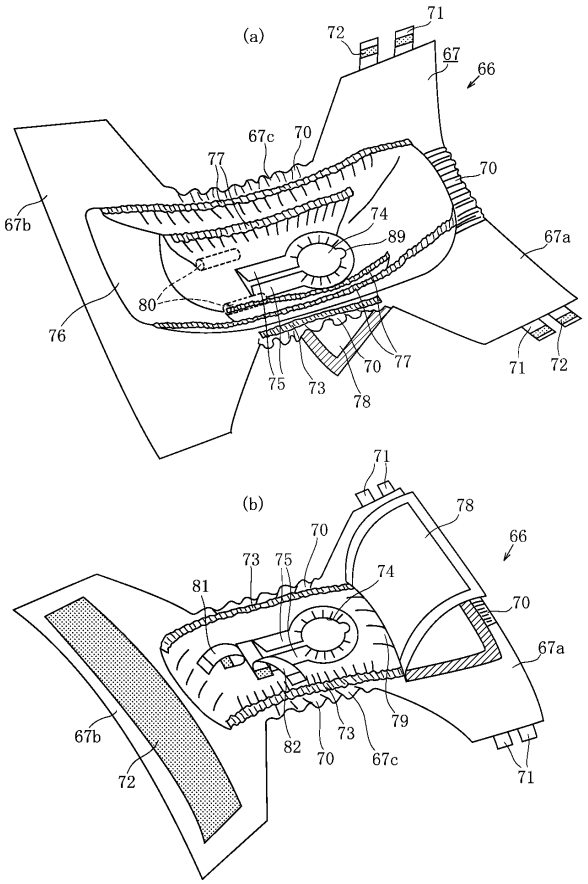
【図１０】



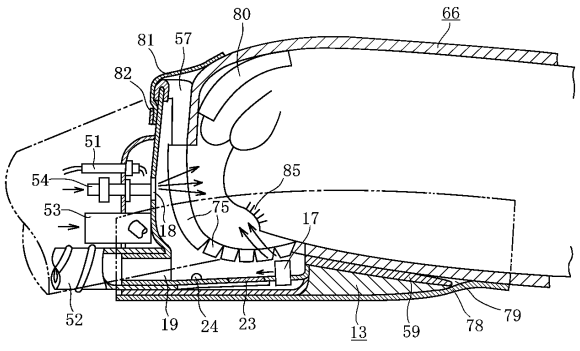
【図１１】



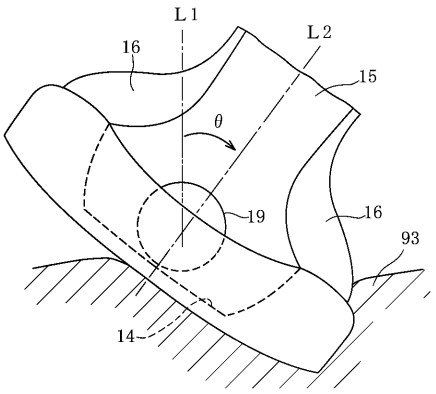
【図１２】



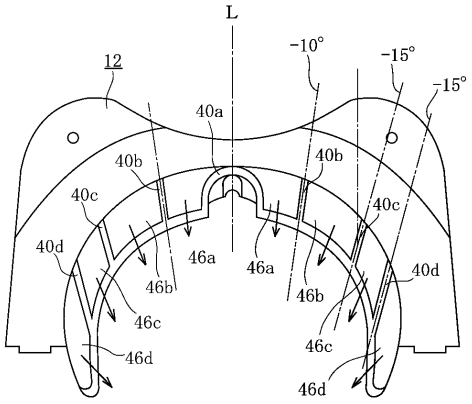
【図１３】



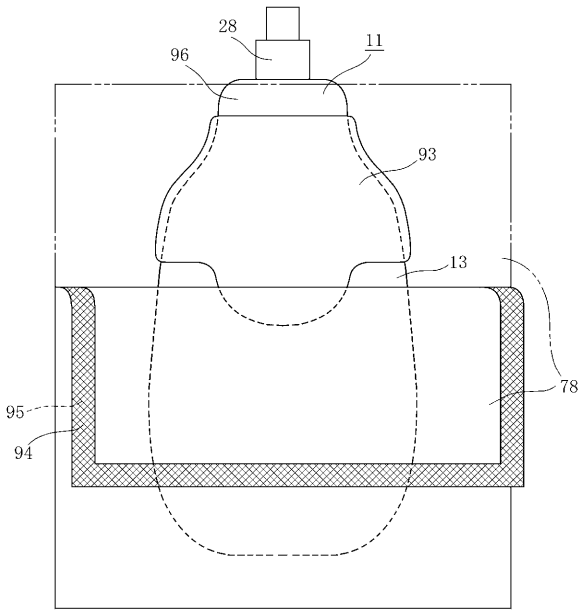
【図１４】



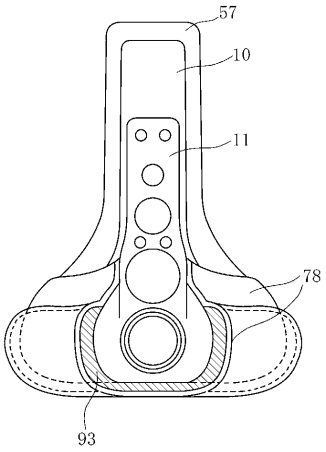
【図１５】



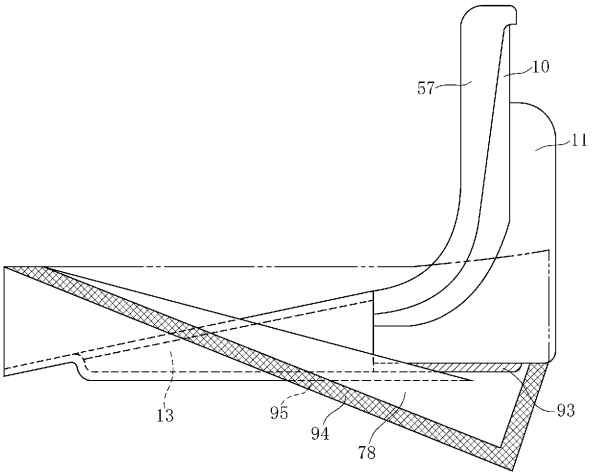
【図１６】



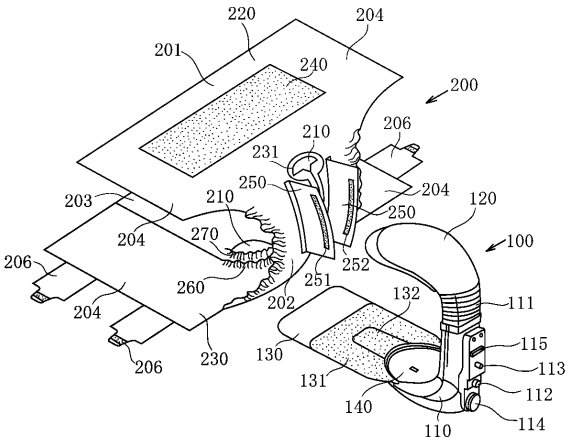
【図１７】


57
10
11
78
93

【図１８】


57
10
11
13
95
94
78
93

【図１９】


220
204
201
240
200
210
206
231
250
204
203
210
250
120
204
270
100
206
252
251
260
132
111
204
202
115
230
130
113
206
131
112
140
114
110

フロントページの続き

審査官　山口　賢一

(56)参考文献　特開２００１－１１２８０３（ＪＰ，Ａ）
特開２００９－０７２３７４（ＪＰ，Ａ）
特開平０２－０２６９０８（ＪＰ，Ａ）
特開２００８－０３６３０１（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６１Ｆ　　５／４５１
Ａ６１Ｆ　　５／４４
Ａ６１Ｇ　　９／０２